

第4回 パラスポーツの振興と  
バリアフリー推進に向けた懇談会

—議事録—

日時：令和6年12月19日(木) 14時30分～15時15分  
場所：東京都庁第一本庁舎7階 ホール

## 【事務局】

定刻になりましたので、「第4回 パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会」を開会いたします。

開会に当たりまして、座長の小池知事よりご挨拶を申し上げます。知事、よろしく申し上げます。

## 【小池知事】

皆様こんにちは。お忙しいところご参加いただきまして誠にありがとうございます。

パラ応援大使の皆様方には事業を盛り上げていただき、また魅力の発信をしていただいていること、改めて感謝申し上げたいと存じます。

パラリンピック東京大会、今年はちょうどパリのパラリンピックも開かれたわけでございますけれども、パラリンピック東京大会から数えますとあつという間の3年でございます。改めてパリ大会を含めて、性別、年齢、障害を越えて競い合うアスリートの皆さんたちはやっぱりすごいな、という思いで多くの方は見られたと思います。そして、スポーツというのは何と言ってもやっぱり勇気と希望を与えてくれるものだと、改めて感じたところでございます。

さて、来年まもなくやってくるわけでございますけれども、いよいよ来年2025年には、あちらに看板を置いていますけれども、2025世界陸上大会、そして手のマークのこちらがデフリンピックで、ともに東京で開催されることとなります。

東京2020大会の時のレガシーをうまく引き出しながら、さらに発展をさせていくという、大きな意味のある大会となりまして、そして多様性の躍動、おもてなしの心で、世界からアスリートの皆様、お客様をお迎えしたいと思います。ぜひスポーツの力を大いに発揮して、インクルーシブな都市の実現に弾みをつけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今日の会議に先立ちまして、大使の皆様方にはデフ体験をしていただいて、そ

ここでは言語の壁を超えたコミュニケーションをご体験いただいております。今日はぜひ、その時の感想も踏まえてご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

誰もが輝く共生社会の実現、そのためには社会全体で機運を高めていく必要がございます。行動していくことが大切でございます。どうぞ引き続き皆さま方のお力添えをよろしくお願い申し上げます、冒頭のご挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

#### 【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、名誉顧問の谷垣禎一様からご挨拶を頂戴します。谷垣様、よろしく願いいたします。

#### 【谷垣 禎一様】

名誉顧問という過大な名前をいただいております、谷垣禎一でございます。今、知事からもお話がありましたように、東京のパラリンピックからあつという間に3年経ちまして、この間のパリのパラリンピックも本当に見応えのある勝負をしていただいて良かったなと思っているわけです。そういう中で私が改めて思いましたのは、パラリンピックにお出になったアスリートの方にも何名かお会いする機会もあったんですが、やっぱりパラリンピックとかこういうものが、自分はこのスポーツが好きなんだっていう、そういう強い気持ちがないと、なかなか障害を持ったお体であれだけのことがおできにならないんだと、やっぱり原点は、俺は好きなんだ、私はこのスポーツが大好きなんだ、こういうことなんじゃないかっていうことを、改めてテレビを見ながら感じたわけなんです。

そういうふうに考えますと、こういうところのメンバーに私も加えていただいておりますけれども、やっぱりパラスポーツというものが、もっと気軽にできる、いろいろなところできるように。そしてバリアフリーというものを、もっともっと良いものにしていかなきゃならない。こういうことを、ここに名前を連ねさせていただいて、これからもやらなきゃいけないことなのかなと改めて思ったわけです。

しかしそういう時に、どのようにしてバリアフリーの社会をつくっていくか。パラスポーツをもっと押し進めていくか。根本的にはもっとやりやすい環境をつくっていくということが大事でございますけれど、やっぱりその時に、私も障害を持ってつくづく感じたんですが、やっぱり障害を持っている方というのは、我慢、障害を持ってこんな勝手なこと言っちゃいかんなど、つい一歩引いちゃうというようなところが、やっぱり私はあると思うんです。ですから、障害を持った人、そしてパラアスリートが、自分はこの世の中になって欲しいんだっていう、その訴えをもっとしやすくというか、そのバリアを取り除くというようなことが極めて大事なんじゃないかなと、こんな風に思っております。ぜひそういうことが、来年は先ほどの知事のお話にもありましたけれど、世界陸上とデフリンピックがございませけれども、そういうものも活用して、ぜひ障害を持った人たち、あるいはパラアスリートが、こういうことをやりたいんだということを自由に発言できるような雰囲気をもっともっとつくっていけたらなと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 【事務局】

谷垣様、ありがとうございました。

続きまして、東京都の取組について事務局の方から報告させていただきます。お手元のモニター、あるいは前方の大きな画面をご覧くださいと思います。

報告事項の1点目でございます。パリ 2024 パラリンピックに連動したイベントの実施報告についてでございます。

パラリンピックに向け応援メッセージの発信やパブリックビューイングの観戦会を実施し、気運醸成を図りました。また大会後は、記念イベントやメダリストの表彰式など、選手の活躍を称える催しを開催いたしました。

次のページです。

東京 2025 デフリンピックに向けた都の取組についてでございます。

来年の大会に向けた準備を進めるとともに、メダルデザインの小学生・中学生・高校生による投票や大会1年前イベント、いつでもどこでも誰とでも繋がる

ユニバーサルコミュニケーションの促進など、様々な取組を展開しております。

次のページです。

報告事項の2点目でございます。バリアフリー化の進捗についてでございます。

ハード面につきましては、鉄道駅においてエレベーターやホームドアの設置を進めております。ホームドアについては、都営地下鉄 106 駅全てで整備を完了し、整備をさらに推進するため、鉄道事業者や関係行政機関など官民一体の協議会を行っております。

また、都道のバリアフリー化、無電柱化など、まちの面的なバリアフリー化を進め、ノンステップバス、ユニバーサルデザインタクシーの普及、あるいは宿泊施設のバリアフリー化などを支援してまいりました。

次のページです。

ソフト面におきましても、情報バリアフリーの取組としまして、デジタル技術を活用した遠隔手話通訳や電話代理サービスなど、聴覚障害者のコミュニケーションを支援いたしております。

また心のバリアフリーの普及に向け、専用のホームページを開設するなど、様々な取組を進めております。

次のページです。

報告事項の3点目でございます。パラ応援大使の活動報告でございます。

大使の皆様には、パリ大会に向けた応援メッセージをいただくとともに、SNSでの相互発信等、様々な取組に多大なるご協力をいただきました。皆様の応援メッセージはパリの現地でも掲示し、また選手の皆様にもお届けしました。

次のページです。

TOKYO パラスポーツ FORWARD や、世陸・デフ 1 年前などの関連イベントに多数ご参加いただき、SNS で発信するなど、パラスポーツの振興とバリアフリーの推進に寄与していただきました。

次のページです。

本日でございますが、大使の皆様にデフ体験をしていただきまして、音が聞こえない中でのボディランゲージ、あるいは表情を駆使したコミュニケーションにチャレンジしていただきました。この後の意見交換の場で、気づきやご感想をいただければと思っております。

次のページです。

最後に、2025年にはいよいよ東京で世界陸上とデフリンピックが開催されます。両大会を通じて、すべての人が輝くインクルーシブな街・東京が実現されるよう、大使皆様のお知恵やお力をぜひお貸しいただければと思います。

続きまして、意見交換の部に移ります。次のページです。

今回の意見交換に先立ち、大使の皆様には事前にアンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

次のページです。

まず1点目、「パリ大会でパラスポーツやバリアフリーに関して印象に残ったこと」につきましては、「選手の清々しさ、躍動感が、健常者との壁をバリアフリーにしてくれたと実感した」。あるいは「パラリンピックの知名度は着実に上がっている」といったご意見をいただいております。

またバリアフリーに関して、「石畳で走りにくいなどの面はあるが、心のバリアフリーは進んでいて、目の前に助けが必要な人がいれば手を差し伸べるなど、パリジャンは普通に行える」といったご回答もございました。

次のページです。

続いて2点目でございます。「世界陸上やデフリンピックを通じて東京がどのような街になって欲しいか」という質問につきましては、「日常の普通のこととして多様性を受け止める街」といった回答。また、「世界をリードする国際都市として、日本独自の優しさを多角的に表現できる街」といった回答もございまし

た。

次のページです。

続いて3点目、「世界陸上・デフリンピックに向けた大使の活動・発信のアイデア」でございます。「世界中の人に東京のバリアフリーを体験してもらい、自国と比較した意見を聞く活動」あるいは「スポーツを通じて心のバリアフリーを考え、体験してもらえる活動」などのアイデアを頂戴しました。

また大使同士の連携といたしまして、「世界陸上・デフリンピックに懇談会メンバーの皆様と一緒に応援に行き、選手へ力を届けたい」などの意見もいただきました。

アンケートについては以上でございます。ご協力ありがとうございました。

それでは早速、皆様のご意見をお聞かせいただければと思っております。

大変恐縮ですが、こちらの方から順番にご指名いたしますので、「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京に向けて、世界陸上・デフリンピックを通じて」ということをテーマにご発言いただければと、先ほどの体験なども織り交ぜていただければよろしいかと思えます。

それでは順番にご指名させていただきます。高橋儀平様、お願いいたします。

#### 【高橋 儀平様】

ただ今、ご紹介にあずかりました高橋儀平でございます。先ほどまで本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。私は建築が専門でバリアフリーですとかユニバーサルデザインをこれまでやってきましたけれども、今までは聞こえる側で手話を見たり、字幕を見たりとかというような形だったんです。今日は完全にイヤーマフをして、聞こえない形で体験をさせていただきました。これは私にとっても、これまでの見えているような状況で見えていなかったことについての、非常に新たな気づきを感じさせていただきました。

これは本当に、場の雰囲気もそうなんですけど、最初はこわごわと関わっていたんですけど、なんとなく自然に皆さんと一緒にテーブルの中で、いつのまにか

手を繋げるような、みんな友達感覚になるという、こういう体験っていうのは、やっぱりこれまでの私のバリアフリーですとかユニバーサルデザインを専門にしてきたところではなかったようなところなんです。なので、やっぱりみんなが一緒にいるとは、あるいはみんながつながるといえるのはこういうことなんだなということを、改めて感じさせていただきました。本当にありがとうございました。

**【事務局】**

ありがとうございました。それでは続きまして野崎様、お願いいたします。

**【野崎 洋光様】**

私は料理人なので、食を通じて体験を見た時に、選べないという言い方は失礼なんですけれど、目が見えない方とか聞こえない方に、どうやって物を伝えるかという中で、ひとつは香りというものもあるんですね。香りで喜びを感じられる。今日耳を塞いでいましたら、意外と集中できる分は私たちより味覚やなんかが優れているのではないかという感じもしました。

すごくそこにおいては、やはり僕らが健康面を携えるような協力ができれば。それから体力面であるとか、アスリートの健康を維持できるということがすごく大事になるような感じがしますので、そういうことでもっと利用していただければと思います。よろしくをお願いします。

**【事務局】**

ありがとうございます。続きまして葭原様、お願いいたします。

**【葭原 滋男様】**

今日の第1部のデフ体験のところですね、そこですごく印象に残ったので、今日お話したいと思うんですけども。私自身が視覚障害という見えない状態で、今日、ヘッドセットをして聞こえない状態を体験すると。そういうところで最初、リハーサルでなんとなくこんなことをやるというのを伺っていたんですが、実際、本番になってみたら全然わからない。どうしようかなっていう感じで苦笑いになってしまっている自分がいました。



これよく考えてみると、もしかしたら海外から来る聴覚障害の方も同じ環境になるんじゃないかな、というのをすごく感じました。言葉は通じない。文字も何が書いてあるかわからない。手話も通じない。そういう状態になると、もしかしたら同じ環境なのかなと思いました。

その中ですごく安心できたところというのは、やっぱりお互いに触れ合っていくこと。または手と手で自分のこと、気持ちを伝える。あるいは相手の伝えようとしたことを一生懸命感じ取ろうと、そんなところ。あるいは、肩をちょっと叩いていただくだけでもすごい安心できました。そんな人と人との触れ合いって、すごく大切だなと思いました。今日その体験の中で、みんなで握手をした。あの時、本当にそのひとつの輪がみんな繋がったな、そういうのを感じましたので、何かこのデフリンピックに向けても、そういうネットワークっていうのもつくっていききたいなと思いました。

#### 【事務局】

ありがとうございます。では続きまして高田様、お願いいたします。

#### 【高田 朋枝様】

ゴールボール競技の高田朋枝と申します。私も視覚障害があり、ほとんど目が見えていません。その中で今回デフ体験をさせていただいて一番感じたのは、難しいことはできないことではない、ということ。できないこととは違うんだな、ということを感じました。

やはり視覚の情報がないので、サポートの方の手を触りながら何が起きているかを読み取りながら、想像しながら参加をしていたんですけども、その情報ももしかしたら少ない中でも、その難しさの中でどうやったらわかるだろう、何が起きてるだろうという想像。そして理解しようとしているその瞬間がすごく楽しくて、その中で理解をした時の嬉しさ。そして、皆さんとコミュニケーションを取れた時の嬉しさというのを感じたので、やはり難しいことはできないことではなく、難しいことはすごく楽しいことなんだな、楽しみを得られるものなんだな、というのを感じました。

多様な人たちが集まる社会の中で、様々な難しさというものはあると思うん

ですけれども、それがあからこそ共生社会自体、共生社会の実現というものが楽しみにつながるのかなというのを実感した時間でした。ありがとうございます。

**【事務局】**

ありがとうございます。続きまして川内様、よろしくお願いいたします。

**【川内 美彦様】**

なぜか名簿の一番上に名前が載っている川内です。私は様々な障害のある方とチームを組んで、もう15年ぐらいかな、小学校で出前授業をやっているんですけれども、デフリンピックについては、もう1年ぐらい前から、その中で子供たちに伝えていたんですね。はじめのうちは、子どもたちも聞いたことがないとかいうようなことだったんですけれども、最近は学校で教えているクラスもあるのでしょうか。子供たちがかなり知っていますよ、というふうなことで手を上げることが増えてきたように思っています。

行っている学校が江東区の学校ということもあるので、江東区はデフリンピックの会場も何箇所かありますので、それもあるのかもしれませんが、みんなでこの国際的に通じる拍手の手話とか、私は指が不自由なのでできないんですけれども、デフリンピックの手話って結構ややこしいのがあるんです。手話通訳の方、ちょっと見せていただけたらいいと思いますけれども。そういうふうなのを子供たちに教えながら、子どもたちの中での認知とか関心というのも高まっているな、というふうに思っています。

**【事務局】**

ありがとうございます。それでは続きまして林家様、よろしくお願いいたします。

**【林家 三平様】**

どうも、林家様です。よろしくお願いいたします。葭原さんと一緒に前に伺った、ご夫婦で目が見えなくて耳が聞こえないという、しかもご夫婦のアスリートの方がいらっしまった。息子さんは健常者なんです。でも家庭がすごく明るく感じ

られる。コミュニケーションってこうした家族でもとれる、耳が聞こえなくてもとることができるんだということを学びました。やはり今やらせていただいて、実を言うと私、左耳が突発性難聴でちょっと不自由なところもあります。なのでやっぱり、かかった時のパニックをどうやって抑えることができるかとか、そういうことで手話というものは、ものすごく役に立つというのがわかりました。

来年に向けて、世界各国からいらっしゃると思いますんで、知事をお願いしたいのは、都営地下鉄、営団地下鉄等の方々もある程度手話ができる公務員の方が増えるとありがたいかな、と思っております。都バスも同じだと思っています。よろしくをお願いします。

#### 【事務局】

ありがとうございます。では続きましてイルカ様、お願いいたします。

#### 【イルカ様】

イルカと申します。今日は初めての体験ということで、ちょっと楽しみもあったんですけど、あちらに行ったらものすごい急に不安になりまして、本当にわかるのかなという不安。やっぱりこの不安というものは、すごくストレスなんだなということを、まずすごく大切なことを体験させていただきました。

しかし自分で集中するということになると非常に感覚が研ぎ澄まされていって、普通だったらなんかもうわからないと思ってしまいがちなこと、集中して見よう、理解しようと思うと、スーッと心に入ってくるんだなということが体験できたことが、その不安から自分が違う安心につながっていく、移っていくということが、とても体験できたということが素晴らしくて、やっぱりだから集中力というのが素晴らしいんだな、というふうに思いました。

お互いにわからないことって世の中にたくさんあると思うんですけども、それをやはりお互いに理解し合おうと思えば、最終的には手話の形がわからなくても、気持ちがあれば必ず通じるんだなということをいただけただけで、非常に今日は、手話ができなくても伝わりますよという言葉がいただけたことが、いろんな方に接する時に不安がなくなったということが、一番みんながつながっていけるんだということにつながれたこと、とても感謝しておりますし、これを

来年もずっと活かしていかれたらいいなと思いました。ありがとうございました。

**【事務局】**

ありがとうございます。では続きまして野村様、お願いいたします。

**【野村 祐介様】**

野村と申します。僕は海外イベントとか旅が好きで、結構アメリカ、今年はフィンランド、デンマーク、エストニア、リトアニア、ヨーロッパも行きまして、台湾、中国も行ったんですが、圧倒的に、例えば視覚障害があれば点字ブロック、ホームドア、または音響式信号機。聴覚障害であればピクトグラムとか、マタニティマーク、ヘルプマークみたいなものがすごく充実、圧倒的に充実していると思うんですよ、東京都に関して、ハード面で。まずそういった2020のパラリンピック応援大使もやらせていただいて、あれ以降、すごく輪が広がってきたと思いますんで、やっぱり谷垣さんがおっしゃった通り、ソフト面で今度は、声を出しやすいというのは本当にすごく大事なことであって、これからやることはそういうところなのかな、というのがひとつ思いました。

また野崎さんと一緒に僕も料理人、特に精進料理屋をやっていますので、これからインバウンドの方をいろいろお迎えするにあたって、やっぱり日本はもったいないとか優しいっていう文化が元々定着しているというか、もう持っているものがあると思っていて。サステナビリティとダイバーシティって、まさに食にとってこのことなんじゃないのかな、というのがひとつあります。そうであるならば、その次のステップに行くということを、僕ら料理人は目指すべきかと思っています。例えばダイバーシティであれば宗教でしたらハラール、ヒンディ、ユダヤのコーシャは当たり前ですが、例えば年齢もあると思いますし、または病状などのこともあると思います。ダイバーシティがそこら辺も、もっと多角的にこれから掘り下げていければ、お迎えした方々に対して制限なく、いろいろ楽しんでいただけるのかなと思っています。

先ほど体験させていただいて、もう本当におっしゃる通り、不安な分、集中力がすごくあって。改めて目と目を見て話すことの素晴らしさというか美しさを

テリーさんもおっしゃっていましたが、もうあれは本当に腑に落ちたというか。どうしても忙しい中で、僕も包丁を握りながらスタッフと話してとか、普段スマホをいじりながら喋ってしまうということに対して、やっぱり表情が美しかった、かりんさんの、あれは本当にすごく痛感しましたので、これはもう、どんな方に対しても共通のバリューと価値だと思います。こういったことも併せて気づける、触れ合うと本当に気づきが多いということが、今後活かしていけたらなと思いました。

#### 【事務局】

ありがとうございます。それでは続きまして高橋みなみ様、お願いいたします。

#### 【高橋 みなみ様】

高橋みなみです。よろしくお願ひいたします。先ほどデフ体験をさせていただいて思ったのは、その言葉から発せられる音に頼ることができないので、いつも以上に表情だったり、体でのボディランゲージが必要になるんだな、というふうに思いました。ただひとつ思ったのは、手話が上手にできずとも身体の動きだったり、表情で伝えることができるんだな、というふうに思いましたし、いわゆる性別の壁であったりとか年齢差みたいなものも超えてゆくパワーが手話にはあるんだなというのは、すごく面白いなっていうふうに思いました。

来年デフリンピック開催時、日本に各国から選手の方が集まると思うんですけども、やはり過ごしやすいというふうに思ってもらうのが一番なのかなと思っていて、環境整備はもちろんですけども、挨拶ですよ。『おはよう』とか『ありがとう』とか『拍手』とか、こういうのってやっぱり覚えると使いたくなりますし、ぜひこういうことをきっかけに浸透させていってほしいな。先ほども体験の時に手話の写真が貼ってあったりしたんですけど、ああいうのが街にいろいろ貼ってあったりすると、皆さん、こういう意味なんだというふうに覚えられるんじゃないかなと思いました。

個人的には、選手の皆さんに負担がない程度に交流できるイベントみたいなものはたくさんやっていただけたらなと思っています。先日「BEYOND STADIUM パラスポーツ キッズワンダーランド」の司会を務めさせていただいたんですけど

れども、本当に多くの子供たちが参加してくださって、すごく楽しみながら学ぶことの大切さみたいなことをすごく感じたので、ぜひぜひ何かイベントをより多く開催していただけたら、デフリンピックも盛り上がるんじゃないかなというふうに思いました。ありがとうございました。

#### 【事務局】

ありがとうございます。では続けて猪狩様、お願いいたします。

#### 【猪狩 ともか様】

猪狩ともかです。よろしくお願ひします。今日デフ体験をして、すごく楽しかったです。手話ができなくても、なんとかジェスチャーで気持ちを伝えたりとか、そういった時間がすごく、それを伝えようとする側も、それを理解しようとする側も、その時間がとても大事なんだな、というのをとても感じました。でもやっぱり手話がわかったほうが、もっとより楽しいんじゃないかなと思ったんです。

その経験を私、1ヶ月ほど前にしまして。テリーさんが演出を手がけたファッションショーのイベントに出させてもらったんですけど、そのステージ裏で、手話で私に話しかけてくれた子がいたんですね。私、本当に少しだけ手話がわかるので、ちょっとだけ会話ができ、なんかその瞬間すごく私嬉しくって。相手の子どもとても嬉しそうにしてくれたので、やっぱりちょっとでも手話してみんなわかったほうが、世界がもっと美しくなっていくんじゃないかなと思ひました。

やっぱりそのためには、子供の頃から手話に触れ合うということが大事なんじゃないかな、と私は思ひていて。私、6年前に車椅子生活になったんですけど、甥っ子たちは幼い頃から私と接しているんで、車椅子に対して珍しいっていう気持ちだとか、どう接したらいいんだろうという迷ひが、甥っ子たちには全くないんですね。やっぱり小さい頃から触れ合うということが大事なんだなと思ひたので、先ほどボッチャが最近体育の授業に入っていたりする学校があるというのを聞いたので、それと並行して、生活とか総合の時間とかに手話の時間というのを入れていく学校があったら、これから何かもっといい社会になっっていくんじゃないかなと思ひました。ありがとうございます。

**【事務局】**

ありがとうございます。ではテリー様、お願いいたします。

**【テリー伊藤様】**

テリー伊藤です。よろしくお願ひします。私はパラ応援大使にならせていただひて名刺をいただきました。その名刺をいろいろなところで配っているんです。そしてこれはすごく効果がありまして、今回もそうなんですけれども、デフリンピックのボランティアに参加させてくれと、たくさん来るんです。その中でいろいろ話を聞くと、陸上の山田選手に会いたいとか、例えばバレーの中田選手に会いたいとかって、そういう人たちも当然いるんで、いいなあと思ったんですね。

ただ一般の方って、なかなか選手のことを知らない。この前のパリも東京もそうだったんですけど、パラリンピック競技が終わった後で人気が出る。競技が終わった後に好きになっていきましたよね、あの人良かったとか。これちょっと僕はもったいない気がしてしょうがないんです。本当にかっこいい、そしてすごい選手いっぱいいるし。先日、実は世界陸上を来年やる選手とクリスマスパーティーをやってきたんですけど、みんなかっこいいですよ。例えば今回もそうなんですけど、山田選手も中田選手もそうですし、オリエンテーリングの辻選手なんか、僕大好きなんです。そういう選手を大会前、11月15日の大会の前にもう少し露出する。そうすることによって、あんなにかっこいいんだ、あんな素敵な選手がいるんだということで会場に行ってくれるということが増えるんじゃないかと。ぜひそういう形をやってみたいなと思うし、私もそういうことでサポートしたいと思っております。知事、よろしくお願ひします。

**【事務局】**

ありがとうございます。では続きまして、谷垣名誉顧問からご意見をお聞きしたいと思ひます。名誉顧問よろしくお願ひいたします。

**【谷垣 禎一様】**

よろしくお願ひいたします。私は先ほど、障害者の声ができるだけ届くような、

そういう社会にしたいと申し上げましたけれど、もうひとつ、実は大事なことがあるんじゃないかと思っております。それは、私なんかもう 80 近いですからこういう障害になっても、自分の人生はこうなるだろうなというのはだいたいわかるわけです。

だけど一緒に障害をもっている方とリハビリなんかをやっていると、例えば 10 代で大怪我を負って自分が描いていた将来と全然違うところになってしまったとか、これはもう年齢とかいろいろなことがありますけれど、そういう悩みを抱えている方が、やはりたくさんいらっしゃるなということに気づきまして。年寄りはいいいというわけではないのですけれど、そういう若い、自分の将来をどう描いていくかなと思っている時に障害を負った方の声を聞けるような、そういうものがあるといいなということを感じておりました。直にパラスポーツと結びつくわけではないんですけれど、そんなことを感じております。

#### 【事務局】

ありがとうございます。それでは最後に座長の小池知事よりお願いいたします。

#### 【小池知事】

皆様ありがとうございます。

実際に今日は手話も体験していただき、そしてまた高橋先生が、そうやって建築に携わっておられる先生が実際体験していただくことによって、例えばホテルなどもルームサービスが来て、ピンポンと鳴っても聞こえない時に、ライトで誰かが来たことを示すとかですね。それから 2020 パラリンピック大会に備えて、同じくホテルですけれども、車椅子が入れるスペースにするためにドアの幅を変えたりとか、いろいろ宿泊施設にもご協力いただいて、パラリンピックに備えたわけでございます。

今度デフリンピックとなりますと、そのニーズが少し変わってくるかとは思いますが、それでも今日、先生に体験していただいたことは、いろんな意味で大きなメッセージに繋がっていくんだらうと思います。

ですからハードの面とソフトの面と両方でみんなが理解し合って、このデフ



オリンピック大会が成功するように、また皆様方のお力をお貸しいただければというふうに思っております。

私自身もちょっと夏に怪我をしまして、久しぶりに車椅子に乗ったり、松葉杖をつくと傘がさせないんだということに気がついたりとかですね。そして必要な時になるとパタンと松葉杖が倒れて取れないとかですね、実際いろいろな体験をしたところでありますけれども。

ぜひこのパラスポーツを通じて、そういったいろいろなニーズが必要な人がたくさんこの世の中にはおられるし、いつ自分がそうなるかわからないということなども含めて、ぜひこのパラスポーツの振興、そしてバリアフリーの推進を、さらに進めていきたいと思っております。

今日は皆様方に実体験を通じて、また日頃お感じになっていることなど改めてお聞きすることができました。より良い大会、そしてより良い東京へと進めていきたいと思っておりますので、どうぞこれからもよろしくお願い申し上げます。本日、誠にありがとうございました。

#### 【事務局】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第4回パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。